

1. 「社長の知恵袋」の連載を始めるにあたって

令和3年（2021年）が始まりました。昨年は3月以降、新型コロナウイルス感染症が日本のみならず全地球的規模で蔓延し、国民が多様な制限を受けて社会活動が不自由になりまた経済活動も著しく停滞しました。コロナ禍以前とは比較できない程に激変した経営環境の中、中小零細企業の経営者は3密防止対策を始め、コロナ感染症の脅威から従業員やお客様を守っていくという必死の経営努力を行ってきたに違いありません。

「経営者は孤独である」と言われます。会社経営に係る全責任を経営者が背負わざるをえないにも関わらず、経営判断等の最終的かつ重要な仕事は経営者その人が行わなければならないからです。この経営者の苦悩を知り得るのは、同業や異業の別を問わず企業経営を行っている経営者仲間や現役を退いた先輩諸氏だと思います。

経営者仲間や先輩諸氏が苦悩する経営者のメンターとして何時でも寄り添ってくれるとは限りません。幾度の艱難辛苦を乗り越えて成功を収めた名経営者の著作物をメンターにすることも可能です。本稿では「優れた経営者であるための要件等」を毎月論じて参ります。毎月の連載が苦悩する経営者のメンターとしての役割を果たしてくれれば望外の喜びです。

2. 「経営者は人格者でなければならない」を考えてみよう

「寄らば大樹の陰」という言葉があります。就職活動をする学生達を揶揄する言葉でもあります。「就職するなら名の知れた大企業へ」という意識が背景にあり、平穩無事に職業人生を始めそして終わりたいという就職希望者の内心をついた一文です。

With コロナや After コロナでの「新しい日常」とはどのような枠組みか、新しい経営スタイルを経営者は模索しています。そのような中、就職希望者も大手ではなくても成長性がありきらりと光る特徴ある中小企業へ自分の職業人生を賭ける人達も出現し始めました。

活気ある中小企業を引っ張っている経営者は人格者でもあります。人間としての魅力に溢れています。経営者が一心不乱にビジネスに没頭する姿に社員は心をついにし、そしてお客様も進んでその会社の商品を購入するという行動にはしるのです。

人格者たる経営者が率いる企業が成長を続けることができるとすれば、経営者に必要な人格というものを確認する必要があります。今回は経営者の人格者としての要件について語ってみたいと思います。

① 先ずは人格者の定義を考えてみると...

辞書によれば人格者とは「すぐれた人格の持ち主」「優れた人格の備わっている人」とあります。これでは堂々巡りです。次に人格について調べてみます。辞書には「独立した個人としてのその人の人間性。その人固有の、人間としてのありかた」とあります。

「経営者の人としてのありかた」は色々ありそうです。全員が持っていなければならない「人としてのありかた」もあるでしょうし、ある特定の社長しか持っていない「人としてのありかた」もありそうです。そこで今回は、高い経営成績を上げ続けている会社を運営している経営者の「人としてのありかた」に焦点をあてて考えてみたいと思います。

② 「聖人たれ」ということではない

人は過ちを起こします。聖人は過ちに微動たりともしないかも知れません。経営者は聖人

である必要はありません。経営は失敗の連続です。失敗したときは嘆き悲しんでも良いのです。失敗から何かを学んで起き上がれば良いのです。七転び八起きができる人。その様な「**精神的にタフな人**」が経営者でなければなりません。

社員の失敗に激怒する経営者がいます。聖人は激怒しません。しかし経営者は激怒し叱って良いのです。しかしその「**激怒・叱責には人としての温かさ**」がないといけません。相手の個性を否定してはいけません。同じ轍を踏まないようにと温かく助言・指導をするのです。

③「夢を追い続ける人」になろう

会社を経営するに当って必ず経営者は夢を持ちます。経営者が思い描く夢（最終ゴール）が壮大なほど、社員達には求心力が強くなり働きます。本田宗一郎が初めて単車を発売した時に「俺たちは世界一になる」と宣言したそうです。社員は荒唐無稽に感じたかも知れません。

この宣言は社員や取引先に向けた言葉だと考えてはいけません。本田は自身を鼓舞激励する為にこの宣言をしたように思うのです。小さな夢を語るのではなく、相当な背伸びをしなければ奪取できない位の夢を語りましょう。閉塞感に包まれている現代の日本社会、「**大夢（大ぼろ）を臆面もなく語れる人**」、そのような経営者の存在を時代は求めています。

④「仕事を楽しく、そして自分に厳しく」あれ

会社が窮境にあるときも仕事を楽しもうではありませんか。心身共に疲労している時でも仕事を楽しむことを忘れなければ、起死回生のアイデアが浮かんでくるものです。**仕事を楽しむことは経営者にとって最も重要な資質**だと理解して下さい。

「仕事を楽しむこと」は「楽に（適当に）仕事をこなす」と同義語ではありません。経営者として自分に厳しい圧力をかけて下さい。誰よりも早く入社し最後まで会社に残る。この程度のことは経営を預かるトップとして当然です。**厳しさから逃げてはいけません**。

⑤「素直な心」を持つ

家電大手メーカーのパナソニックの創業者である松下幸之助翁の著書の1つに「素直な心になるために」があります。本名に“素直な心”とあるのに違和感を感じます。経営の神様でも“素直な心”で人に接した会社経営に当たることは困難だったということでしょう。

人は外界を見る際に自分を中心に置いて眺めます。邪念を持って外界をみると、ありのままの外界の姿は見えなくなります。自分の**心を透明にする、無心になる、そして素直になる**ことで正しく外界を見ることが出来る。松下翁はそのように言っていると思うのです。

⑥反省、内省、内観の習慣付けを

かなり前になりますが「反省は猿でもできる」といって笑いに変えた芸人がいました。猿が演じる反省は形だけのものです。心より反省できるのは人だけです。反省を一步進めて、内省や内観を試みましょう。

「成功から来る驕りがなかったか」「正しい商売をしてきたか」など、表面上の反省ではなく失敗や成功の核心に辿り着くまで真剣な問い掛けを試みましょう。**反省、内省、内観の習慣をもっている人**。成功する経営者になるにはこの習慣付けが必須だと心得て下さい。